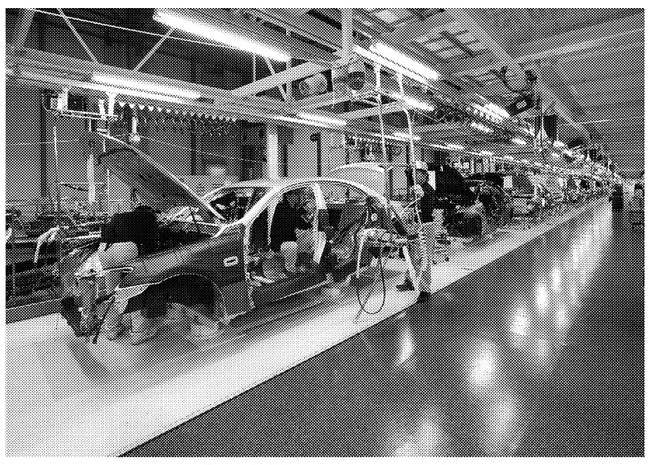
北部九州の自動車産業 未来へ

燃料電池車の普及へ

九州北部は自動車産業の集積地。トヨタ自動車九州（福岡県宮若市）、日産自動車九州（同苅田町）、日産車体九州（同）、ダイハツ九州（大分県中津市）が立地し、合計の生産能力は年間154万台を誇る。2012年度の生産台数は142万台で過去最高を記録、乗用車生産の国内シェア17％を占める。地元の産学官はさらなる生産拡大を目指している。福岡県では15年に市販車の発売が予定される燃料電池車（FCV）関連の動きが活発だ。


トヨタ自動車九州の「レクサス」生産ライン

高級車「レクサス」を生産するトヨタ九州は13年6月、92年に生産を始めてからの累計が500万台に到達した。13年は本格的な開発を初めて手がけた新型「SAI（サイ）」が発売され、生産基地としての地位を固めている。

日産九州は韓国や九州の部品メーカーからの調達を拡大し、コスト競争力の強化に取り組む。13年3月には貨物トレーラーの日韓間相互乗り入れを開始。従来必要だった積み替えの手間を省いた。

ダイハツ九州は13年、福岡県久留米市で70億円を投じ、エンジン工場の年間生産能力を従来の1・5倍となる32万4000基に増強。親会社のダイハツ工業は「久留米開発センター」を整備することを決めた。軽自動車エンジンを主体とするプラットフォーム部品の評価・解析拠点。場所はダイハツ九州のエンジン工場隣接地で140億円を投じる。14年3月にはエンジンや変速機の実験棟を開設。同年12月には試走路を完成させる。従業員は100人程度を見込む。

立地する自動車メーカーに対し北部九州の産学官は支援態勢の拡充を続ける。13年4月、福岡県はそれまでの150万台構想に替わる新構想「北部九州自動車産業アジア先進拠点推進構想」を発表。10年間で国内生産の20％、年間生産180万台を目指すこととした。

産学官組織「北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議」は地元企業からの調達率アップや新しい自動車社会の提案、先端人材の集積・交流拠点の形成を目指す。そのため地場企業の技術力強化や研究開発支援、人材育成に取り組んでいる。

また福岡県は、自動車関連企業の集積地で工業団地整備を進める。福岡県苅田町の「新松山臨海工業団地」で面積は35ヘクタール。5キロメートル以内に東九州自動車道のインターチェンジ、苅田港、北九州空港がある。分譲開始は15年度を予定。

県、北九州市、福岡市が共同で進める「グリーンアジア国際戦略総合特区」では、自動車関連メーカーが税制や金融の支援が受けられる指定法人になるケースが増加している。ダイハツ九州やユニプレス九州（みやこ町）などが指定されている。

2015年に大手自動車メーカーの市販が始まり、普及がスタートするFCV。メーカーだけでなく水素インフラ整備を後押ししようと政府が動く。福岡県は水素エネルギーを利用する社会づくりに産学官で取り組んでおり、水素社会における先進地域となっている。

FCVはトヨタ自動車とホンダが15年の一般発売を目指しており、日産自動車の市場投入は17年になる見通し。トヨタの価格は1000万円を切ると見られている。

普及には、ガソリンスタンドのように水素を供給する水素ステーションの普及が欠かせない。日本では15年までに100カ所を整備する計画がある。政府は普及を加速させるため関連規制を見直そうとしている。現在は水素の輸送やステーション設置の規制を対象に検討が進む。

FCV普及は国際的な動きでもある。18カ国・機関が参加する水素エネルギー利用に関する国際協力の枠組み「国際水素燃料電池パートナーシップ（IPHE）」は、13年11月に運営会議を開催。水素ステーションの信頼性や安全性に関するデータベースを日米共同で構築することを盛り込んだ今後10年間のアクションプランについて議論を交わした。

福岡県糸島市にある「水素エネルギー製品研究試験センター」では、大型水素タンクに対応した試験施設が建設されている。水素ステーション用やタンクローリー用など大型品の耐久性や耐圧性の試験を可能にするのが目的。完成は2014年3月を予定する。

完成後、10年4月に開業した同センターは、従来可能だったFCV用タンクに加え、大型用の対応が可能となる。大型の試験は従来、海外で行われていた。事業費は29億4000万円。敷地面積8300平方メートル、建物面積2000平方メートル。1000気圧級の高圧水素試験室4室と液圧試験室2室を備える。長さ6メートル、直径0・8メートルのタンクを試験できる。

福岡県が事務局となっている「福岡水素エネルギー戦略会議」は、水素エネルギーに関する国内最大の産学官組織で全国約700の企業・機関が会員。会議は「福岡水素戦略（Hy-Lifeプロジェクト）」に基づいて水素の製造から輸送、貯蔵、利用までの研究開発や社会実証、人材育成を行っている。

水素エネルギー製品研究試験センター

知事メッセージ

福岡県知事　小川　洋 氏

福岡県では、産学官が一体となって自動車産業の振興に取り組んできましたが、現在、北部九州は年間154万台の生産能力を持つ世界有数の自動車生産拠点となりました。昨年4月には、今後10年の「北部九州自動車産業アジア先進拠点推進構想」を策定し、国内シェア20％、180万台生産を目標に、アジアをリードする一大先進拠点となることを目指して、地元企業の技術力・研究開発力の強化やそれを支える人材の育成など、地域の総力を挙げて取り組んでいるところです。

1月24日からの4日間、「クルマの力、未来への力」をテーマに、「福岡モーターショー2014」を開催します。国内外の自動車メーカーのコンセプトカーや最新型の市販車の展示のほか、水素を使う燃料電池自動車の試乗会や九州の伝統工芸品を使った九州オリジナルカスタマイズカーの展示など、さまざまな催しを企画しています。

ぜひご来場いただき、クルマの楽しさ、素晴らしさを体感してください。

1月25日に自動車フォーラム

自動車が生活を豊かにし、未来を築く力があることを世界有数の自動車生産拠点となった北部九州から発信する―。そのような目的の展示会が24日から福岡市博多区のマリンメッセ福岡、福岡国際会議場、福岡国際センターを会場に開かれる「福岡モーターショー2014」だ。27日までの4日間、内外のブランドがコンセプトカーや最新モデルを展示。ドライビングシミュレーター体験会や試乗会、講演会が開かれる。主催は産学官で組織する実行委員会。15万人の来場を見込む。

出展は、4輪25ブランド（国内8、輸入17）、2輪9ブランド（国内3、輸入6）となる。東京モーターショーでワールドプレミア、ジャパンプレミアとして発表された車が多数九州に初上陸する。

運転を疑似体験できるのは、家庭用ゲーム機「プレイステーション3」用で13年12月に発売されたばかりのソフト「グランツーリスモ6」のコーナー。1200以上の車種と100種のコースに対応する。実車に関しては最新市販車やFCV、FCVバスの試乗会を開く。

子供向けには救急車やパトカー、自衛隊特殊車両、レッカー車などの「はたらく車」を展示。ミニ電気自動車（EV）と二足歩行型ロボットの製作教室や親子バイク教室を開く。

期間中は、さまざまな研究会やセミナーが行われる。24日は「ISIT第14回カーエレクトロニクス研究会」「福岡スマートコミュニティセミナー」「燃料電池自動車セミナー」。25日は『インターンシップが繋（つな）ぐ企業と大学の人作り』九州大学オートモーティブサイエンス研究会」が福岡国際会議場で実施される。

25日13時半から同会議場では「自動車フォーラム」が開かれる。トヨタ自動車の豊田章男社長が「もっとクルマを語ろう。I Love Cars!」と題して講演する。またトヨタ自動車、日産自動車、マツダの開発担当者によるトークセッション「ヒットメーカーの開発秘話（仮称）」を実施する。

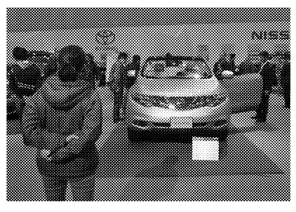
2012年のモーターショーの様子

北部九州自動車未来展

1月24日（金）～27日（月）9:30～18:00（ただし、27日は17:00まで）　**福岡国際会議場**（福岡市博多区石城町2-1）

北部九州生産車両展示

北部九州に立地する自動車メーカー4社（日産自動車九州、日産車体九州、トヨタ自動車九州、ダイハツ九州）が生産した車両を展示。



九州オリジナルカスタマイズカー展示

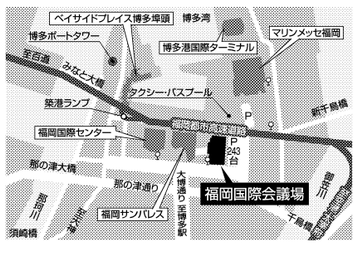
九州7県とトヨタ自動車九州が連携し、博多織や大川木工など伝統工芸品を使ったオリジナルカーを製作・展示。併せて、オリジナルカーに使用した伝統工芸品も紹介・展示。

燃料電池自動車展示・試乗会

燃料電池自動車の展示・運転試乗や、燃料電池バスへの体験試乗を実施。

九州学生製作車両展

九州の大学、高専、専門学校、県立工業高校が製作した車両17台を展示。



会場までの交通案内

●博多駅より　博多駅センタービル前Eのりば（福銀前）
88番 中央ふ頭行 乗車、国際会議場・サンパレス前下車
99番 博多ふ頭行 乗車、国際センター・サンパレス前下車

●天神より　ソラリアステージ前2Aのりば
80番 中央ふ頭行 乗車、国際会議場・サンパレス前下車

福岡モーターショー2014

会　期：平成26年1月24日（金）～27日（月）
会　場：マリンメッセ福岡、福岡国際センター、福岡国際会議場
入場料：一般1,300円（前売り1,100円）、高校生800円（前売り600円）
中学生以下無料　※ただし、国際会議場は入場無料

福岡モーターショー2014　検索

お問合せ先　商工部自動車産業振興室　TEL:092-643-3447　福岡県